

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書**

平成25年3月29日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 京都大学渉外部

職 名 渉外部長

氏 名 河 野 忠 男

助成の種類	平成24年度・社会連携助成			
事業名	京都大学「知の発信」			
実施期間	春秋講義(春季) 平成24年4月25日、5月9日、23日 春秋講義(秋季) 平成24年9月16日、30日(台風のため中止) 地域講演会(岡山) 平成24年9月1日 地域講演会(沖縄) 平成24年12月15日			
実施場所	京都大学時計台記念館百周年記念ホール、岡山全日空ホテル、沖縄県市町村自治会館			
参加者	総数 2,770名	内訳 春秋講義 2,214名 地域講演会 556名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	事業に要した経費総額	3,519,145円		
	うち当財団からの助成額	2,000,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学 大学運営費		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	印刷製本費	664,650	664,650	
	通信運搬費	249,915	192,310	
	旅費・謝金	1,079,690	0	
	広告・宣伝費	504,000	504,000	
	施設使用料	879,890	591,140	
消耗品等	141,000	47,900		
合 計	3,519,145	2,000,000		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 大学が実施する社会連携事業にご理解、助成を賜り無事公開講座、講演会を実施することができましたこと、深く感謝いたします。			

【京都大学「知の発信」の実施状況について】

京都大学「知の発信」として、京都市内においては「京都大学春秋講義（春季・秋季）」を、京都市内以外においては「京都大学地域講演会（岡山・沖縄）」を開催した。

「京都大学春秋講義（春季・秋季）」は、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資産について、広く学内外の人々との共有を図ることを目的として昭和63年度より春季及び秋季の2回、京都大学の教員による連続講義（月曜講義、水曜講義）の形態で開催しているものである。

本年度は、事業の見直しを図り、月曜講義、水曜講義の別をなくし、春季に3日間、1日1講義、計3講義、秋季に2日間、1日2講義、計4講義、合計7講義を計画し、秋季の2日目（台風により中止）を除き実施した。秋季については、これまでのように平日の夕方からの開催では参加が困難な社会人などに配慮し、日曜日の昼間に開催した。

春季の講義では、「こころを科学する」を共通のメインテーマに「健康なこころを支える脳のおもしろさ」「子どものこころの発達と社会性の脳科学」及び「村上春樹でこころを科学する」について3名の講師が講義を行った。

また、秋季の講義では、「危機管理」を共通のメインテーマに1日目は「事業継続をめざした危機管理」「大震災から暮らしと地域を守るために ～3・11から学ぶ～」について2名の講師が講義を行った。2日目は「危機に強いエネルギーシステムを考える」及び「福島第一原発事故を経験し、リスク評価の限界を悟る」について2名の講師が講義を行う予定であったが、当日台風接近に伴う危険回避のため、開催を中止した。各講義終了後には質疑応答の時間を設け、活発な質問があった。

春季の講義には延べ1,912名、秋季の講義には延べ302名、合計2,214名の参加者があり、1講義当たり443名（過去最高）の参加者があった。

春季、秋季ともにメインテーマを設け例年より開催回数を減らしたことで、テーマに沿った精選された講義を提供できたこと、また、開催場所について、これまでのアンケートで希望の多い時計台記念館に絞ったことにより、例年になく多数の参加者（1講義当たり443名）を得ることができたことは大きな成果であった。また、日曜日の昼間に開催を試みた秋季については、参加者の職業別比率によると、会社員及び公務員・法人等職員といった社会人の割合が20.5%となり、春季よりも約10ポイント増しとなり働き盛りの社会人などの層の利便性向上に一定の効果が見られた。

講義終了後に実施したアンケートによると、「人の成長、コミュニケーション、社会性にとって必要なポイントが理解できた。」「脳の仕組みと心の問題についてわかりやすく解説していただき勉強になった。」「危機管理をシステムティックに実施することを学んだ。」「自分の会社や地域の自主防災を考えるうえで参考になった。」「最先端の研究内容について分かりやすい説明であった。画像が非常に興味深かった。」などの感想や意見があり、本講座は来年度以降も実施し、地元地域住民を中心とした多くの方々に参加いただけるようさらに魅力あるテーマ・講義を企画し、広報についても工夫を

していきたい。

「京都大学地域講演会」は、京都大学が伝統的に蓄積して来た高度な学術や知的財産に加え、現在進行している教育・研究活動や新たな研究成果を全国の各地域に出向き紹介することを通じて、広く社会に還元するために開催しているものであり、本年度は岡山市と那覇市で開催した。

岡山講演会では、理学研究科附属天文台長の柴田一成 教授が「爆発だらけの宇宙と太陽－我々はなぜ生まれたのか？」と題した講演を行い、定員（300名）を超える362名の参加があった。本年度は金環日食など市民が感心を寄せる天体現象が多くあったこともあり、中高生を含む多くの若い参加者からも活発な質疑があり、盛況のうちに閉会した。

沖縄講演会では、人間・環境学研究科の伊従勉 教授が「ふたつのみやこの近代：京都と首里・那覇」と題した講演を行い、定員（150名）を超える194名の参加があり、京都と首里・那覇というふたつの古いみやこに関心を寄せる方々が多くみられ、講演終了後も質問のため列ができるほどの盛況であった。

講演会終了後に実施したアンケートによると、「難しいテーマをわかりやすく工夫してお話しただいて良かった。」「滅多に聞けない内容で知的好奇心を満足させるものでした。」「京都と首里・那覇の都市の変遷や同じような共通点を持つことがわかってとても有意義でした。」などの感想や意見があり、本講演会も春秋講義と併せて来年度以降も引き続き実施することにより、京都大学が生み出す「知」の発信を通じて生涯学習機会の提供による社会との連携をさらにすすめていきたい。